

令和5年6月9日

令和5年度静岡市協働パイロット事業審査委員会 審査結果講評

静岡市協働パイロット事業審査委員会
委員長 深野 裕士

令和5年度静岡市協働パイロット事業では、新規事業3件、継続事業2件の協働事業が提案されました。各企画提案について、一次審査（書類審査）を実施し、新規事業については3件の企画提案を対象に二次審査（面接審査）を実施しました。継続事業については2件の企画提案を一次審査で仮決定とし、二次審査にて採択の可否を決定しました。

「協働事業」とは、具体的な個別の課題について、市と市民活動団体がそれぞれ自らの果たすべき役割及び責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力し合い、又は補完し合って行うものをいいます。

協働パイロット事業においても、本市全体の社会的課題について、本市と実施団体が協働して取り組んでいく提案を期待するものです。

審査においては、次の6つの評価点に基づいて評価・採点を行いました。

- (1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか
- (2) 協働にふさわしい事業か
- (3) NPOの先駆性・創造性を活かした事業か
- (4) 実行性が十分に感じられるか
- (5) 予算の見積りは適正か
- (6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か

協働パイロット事業は試行的な協働事業ですが、これを契機に本格的な協働事業への発展や、継続的な事業実施へのステップアップを目指すものであるため、「(1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか」、「(2) 協働にふさわしい事業か」及び「(6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か」については、特に重点を置いて評価をしました。

二次審査の結果、新規事業の候補としては以下の1件の企画提案を採択しました。

- 1 就職氷河期世代を始めとする多種多様な市民による、フラットに語り合えるコミュニティ形成および情報発信
つながりあいず

また、継続事業の候補としては以下の2件の企画提案を採択しました。

- 1 若手先生がもう一步進める！「いつもの保育に自然体験を」研修
特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会
- 2 大・小まち探検ゲーム開発を通じた地域コミュニティの活性化プロジェクト
特定非営利活動法人まちなびや

【審査委員講評】

新規事業

- 就職氷河期世代を始めとする多種多様な市民による、フラットに語り合えるコミュニティ形成および情報発信
つながりあはず《採択》

就職氷河期世代を始め、社会参加が難しい方が相互に語り合えるコミュニティ形成と情報発信事業として提案いただきました。

団体は、市が令和2年度から実施している「就職氷河期就職促進事業」に対し、その効果は評価しつつも、行政主体では個人に対する細かなアプローチまで手を伸ばせず、取組が一過性で終わってしまうのではないかという課題認識をもっております。本提案は、個々の状況に応じた交流イベントを当該団体が参加者とともに開催し、参加者が相互に対話・応援ができるコミュニティの形成を促し、また、そこでつながった人や場所等をSNSやホームページ、季刊誌の発行によって情報発信を行うことで、市がフォローできない領域を補うものとなっています。

行政の手が届きにくい方々に対し、市民活動団体の特性を生かした取組が期待され、協働にふさわしいという点や、団体が独自で取り組んできた、市民同士がフラットに語り合えるコミュニティの形成に関して、その実績が実行性・継続性の視点から高く評価され、採択に至りました。

今後、事業を進めていく上では、地域の人材、店舗や場所等をつなげ、地域に定着するような事業となることを期待します。

○DV加害者更生支援ポータルSHIZUOKA

特定非営利活動法人ルークス

課題テーマ「DV加害者更生支援」に対して、DV加害者に対する更生支援の情報をまとめたポータルサイトの構築等について事業提案をいただきました。

市からの課題テーマは、DVにおいては被害者支援と同様に、加害者の更生支援が重要である一方、市がDV加害者更生支援のための事業が展開できていないという現状に対し、更生に必要な知識や、支援を行っている機関等の情報をまとめ、加害者を含めて広く市民に周知するための提案を期待するものでした。

本提案は、SNSを用いてDV加害者更生支援情報をまとめるポータルサイトを設置し、支援情報の集約や加害者へ向けての知識やメッセージ発信を行うとともに、加害者更生・支援者育成ワークショップを実施するというものであり、課題テーマに対して提案内容が的確であることや、それぞれの特性を分析したうえで最も適したSNSを活用する手法はタイムリーで、NPOが持つ先駆性や創造性が活かされている点が評価されました。

一方で、支援先の情報がだまかであり、ポータルサイトを利用した方がどのように支援

先と繋がっていくのか、支援先でどのようなフォローがなされるのといった点が不明確であり、対応が難しく細心の注意を払うべき問題であるだけに、どこまでの対応が可能なのかが見えにくいといった意見や、加害者更生プログラムや支援団体の情報について調査不足という印象がある、といった意見が委員からありました。

今回は不採択となりましたが、支援先となる団体との連携を深め、あるいは各団体が相互に連携できるような環境を構築したり、国内外において加害者支援に取り組んでいる機関の情報等を広く集め、事業をブラッシュアップしていくことで、課題に対してより効果的な解決を図ることができる提案となることを期待します。

○【自分を大切にす教育】

～現場ですぐに使える静岡発の教材づくりと人材育成～
劇団音乃屋静岡支部

団体の都合により、審査に不参加であったため、本提案に関する講評はありません。

継続事業

○若手先生がもう一步進める！「いつもの保育に自然体験を」研修
特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会 <<採択>>

本事業における令和4年度の成果として、こども園2園における自然体験の保育実践を行うとともに、その様子を撮影して動画を制作し、私立園や無認可園を含む市内全園に対して動画を紹介する等、計画どおりの事業が遂行され、その内容はこども園の職員や有識者から高い評価を得ているとのことでした。

継続事業としては、令和4年度に作成した動画を活用したうえで、実践研修の対象とする園を3園に増やすとともに、園をまたいで見学者を募ることや、こども園園長会における報告することの提案があります。令和5年度の提案については、令和4年度の成果を活用し、また、自然体験教育に意欲のある教員の実践力を高め、現場における自然体験の浸透がより効果的に進むための工夫がなされている点を評価しました。

専門的知識を持つこども園の職員が不足しているという課題を静岡市と共有した上で、環境教育を次世代へ繋いでいくため、幼児公教育現場においてノウハウの蓄積を進めていくことは、継続する意義があると考えられることから、本提案については、継続事業として採択しました。

○大・小まち探検ゲーム開発を通じた地域コミュニティの活性化プロジェクト

特定非営利活動法人まちなびや<<採択>>

本事業における令和4年度の成果として、小学生が大谷地域で働く人たちに取材・撮影を行い、「シゴト人マップ」を作成しました。また、そのマップと録音した音声を利用した「まち探検ゲーム」という音声クイズラリーを実施する等、計画どおりの事業が遂行され、その内容については、参加した小学生が地域の魅力に気づくことができたり、学生と地域の高齢者との接点が生まれたりする等、事業の目的である新たなコミュニティの形成につながっているとのことでした。

継続事業としては、引き続き「シゴト人マップ」の作成を通じて小学生が地域の魅力に気づき、新たな魅力を作るきっかけとすることや、「まち探検ゲーム」のブラッシュアップを通じて小学生や大学生と地域住民等との接点を増やすことで、前年度事業よりも更に多くの住民が参加する機会を創出し、コミュニティの形成に寄与するだけでなく、まちづくりの主体としての人材育成を図る機会とする等、事業の効果を多角的な視点から見込み、提案内容を発展されている点を評価しました

「まち探検ゲーム」を通じた、地域の様々な属性の住民のつながりは活動を重ねることで密接になり、人材育成についても経験を重ねることでより主体的な活動が期待され、継続する意義があると考えられることから、本提案については、継続事業として採択しました。